

2014 年 12 月 4 日
澤田 莉沙 (HW・生命)

生命機能研究科 × ヒューマンウェアイノベーションプログラム 共催

第 9 回 学生主催若手合宿研究交流会

企画素案

1. これまでの若手合宿

- ・ 合宿の目的
- ・ 例年の合宿内容
- ・ 報告書のまとめ

2. 来年度の若手合宿

- ・ 合宿の目的
- ・ 合宿で得られる収穫
- ・ 合宿内容
- ・ 実施プログラム案
- ・ 現在の合宿運営委員

1. これまでの若手合宿

・ 合宿の概要

若手合宿研究交流会は、毎年夏に開催される、二泊三日の学生主催合宿である。大学院生・若手研究者間の交流を通じ、生命機能研究科の理念でもある「異分野融合」を推進してイノベーションを起こし、世界的に活躍する人材を育成することを目的としている。このため、自分の研究を俯瞰的に見つめなおし、他分野との融合研究の手がかりを得る、またとない機会である。

企画・運営は合宿運営委員会を中心とした学生が行うので、企画力・マネジメント力が養われる。また、合宿中の主言語は英語であり、関連分野の海外大学院生やポスドクを招聘するため、国際的なコミュニケーション能力を身につけることができる。

このように合宿を通じて、専門研究を行っているだけでは得られない貴重な体験ができるのである。

・ 例年の合宿内容

参加対象者： 生命機能研究科の学生、ポスドク、助教、ヒューマンウェアの履修生

参加費用： 23,000 円

(うち、19,800 円は阪大規定の出張費として支払われるため、実質 3,200 円)

時期： 夏 (6～8月)

場所： 関西の研修・宿泊施設

コンテンツ： ポスターセッション、グループディスカッション、特別講演など

・ 実施統括

アンケート結果によると、毎年参加者の 70～80%が「満足」「ほぼ満足」と回答している。理由として、「異分野の研究に触れるいい機会になった」「英語で研究の話をする訓練になった」「異分野や多国籍の研究者と交流でき、自分のネットワークを広げることができた」などを挙げている。

また、招聘した海外学生が、翌年の生命機能研究科の五年一貫博士課程に入学することもあり、海外に向けての大阪大学のアピールにも本合宿が貢献していると思われる。

2. 来年度の若手合宿

・ 合宿の目的

現代社会は巨大・複雑化し、全体を見通して現状を正しく認識することが困難となる一方、学問は高度化し、科学は一層、専門細分化が進んでいる。このため、環境問題のような巨大かつ複雑な諸問題の発生に際して、微視的な知見からでは解決できず、細分化された一領域に留まった研究では行き詰まっている。これを打破するには、HWIP が提唱する総合的・分野横断的な研究によるイノベーションが不可欠である。

こうしたことを鑑み、生命機能研究科中心のこれまでの学生主催若手合宿研究交流会を、情報科学研究科・基礎工学科も加えた 3 研究科合同開催とすることを提案する。合同開催により、さまざまな分野の研究に幅広い視点で触れることができ、融合研究を大規模に発展させる手がかりが得られるからである。

そのための目標として、以下を掲げる。

- 1) 現代社会における問題の認識と、実際に行われている融合研究の知見を得る。
- 2) 異分野の研究者と議論することで、大局的観点から他分野との融合による発展の可能性を模索する。
- 3) 分野外の研究者にも理解できるように、自身の研究内容や考えをわかりやすく伝える訓練を実践的に行う。
- 4) 合宿を通して英語を主言語とし、国際的なコミュニケーション能力を身につける。

・ 合宿で得られる収穫

1. 研究科の壁を越えた研究交流を行う経験

融合研究の有用性は認知されているが、実際に研究科をまたぐほどの異分野交流の機会是非常に限られている。だからこそ、参加者は普段の研究活動だけでは得られないことを経験できる。

2. 自分の専門分野の重要性を他分野の研究者に分かりやすく説明する能力

普段自分がいかに限定されたコミュニティ内で議論を行ってきたかを実感し、他分野の研究者に分かりやすく説明することの難しさと重要性を実践的に学ぶことができる。

3. 俯瞰力を養い、異分野の研究の本質をとらえる能力

融合研究には、自身の研究を分かりやすく伝える能力だけでなく、相手の研究を理解する能力も必要である。本合宿は、専門的な知識がない他研究科の研究を総合的にとらえることで、その本質を理解するための訓練となる。

4. 外国の研究者との議論に必要な、英語でのコミュニケーション能力

研究活動においては英語でのコミュニケーション能力が重要であるが、実際に英語を用いて密に議論できる機会は、日本国内では非常に限られている。3日間を通して英語で議論する経験は、参加者の英語力だけでなく、英語学習に対する意識も向上させるだろう。

5. 他分野で行われている研究に対する知見

実際に他分野の研究者とひざを突き合わせて議論をすることは、自身の専門外の知見を得るために、最も効率のよい方法と考えられる。

6. 国内外を含んだ、他研究室や同世代とのコネクション

大学院生のうちから、国内外の幅広い分野の同世代とのネットワークを築くことは、将来的に非常に価値がある。特に融合研究を行う際には、異分野の研究者との繋がりが不可欠である。

・ 合宿内容

参加対象者： **生命機能研究科、情報科学研究科、基礎工学研究科の**

大学院生、ポスドク、助教

参加費用： 約 3,000 円 （例年通り）

時期： 2015 年 7 月 15 日（水）～ 18 日（金）を予定

場所： ホテルウェルネス大和路 を予定

〒633-0045 奈良県桜井市山田 2 9 9-1

プログラム： ポスターディスカッション、特別講演、レクリレーション

合宿前の事前ワークショップ（English school, アウトリーチ講習 etc.）

・ 実施プログラム案（仮）

ポスターセッション・ディスカッション

ポスターセッションでは、参加者全員が自身の研究成果を発表する。発表者は自分の研究を分かりやすく、かつ理論的に説明することが求められる。一方、聞き手は、異分野の研究であっても本質を理解する力が必要である。多種多様な分野の発表に接し、さまざまな視点から率直に議論できる機会である。

ディスカッションのセッションは、グループごとに研究にとらわれないテーマなど、より国際的で幅広い議論が促進されるような企画を考案中である。

特別講演

1) 現代社会が抱える問題、2) 融合研究の実現法、の2つのテーマで、それぞれの第一人者を招聘する。

1) に関しては、理系研究者のみならず、社会学者、哲学者、ジャーナリスト等も講師候補として検討している。

2) に関しては、実際に融合研究によって成果を挙げている研究者を講師として招聘する予定である。

ワークショップ

専門的な研究内容を、一般の人々など、その分野に精通していない人に効果的に伝えるためのポイントについて、実践的に学べるワークショップを模索している。また、合宿前後にもこのようなワークショップを実施し、合宿をより効果的なものにしたいと考えている。

エクスカージョン

異なる研究背景や異なる言語文化を持つ研究者間で議論を行う場合には、自分の考えをきちんと伝え、相手の主張を理解できるコミュニケーション能力が非常に重要となる。エクスカージョンは、リラックスした雰囲気の中で、外国の研究者とお互いの考えを共有することを目的とする。そのために、少人数グループでの行動などを思索している。

また、海外学生とコミュニケーションできる機会を最大限に利用し、合宿での議論がより有意義なものになるように、合宿前後にキャンパス内での交流会等を検討している。

- ・ 現在の合宿運営委員（情報・基礎工からも募集予定）

代表 （氏名 所属研究科 研究室 学年）

澤田莉沙 生命機能研究科 近藤滋研 M2

電子メール：muc030@fbs.osaka-u.ac.jp

合宿運営委員 （氏名 所属研究科 研究室 学年）

垣塚太志 生命機能研究科 柳田研 M2

日浅夏希 情報科学研究科 清水研 M2

Zuben Brown 生命機能研究科 高木研 M2

小森隆弘 情報科学研究科 四方研 M1

伊藤忠弘 生命機能研究科 四方研 M1

水山遼 生命機能研究科 小倉研 M1

竹本健二 生命機能研究科 八木研 M1

近藤和彦 生命機能研究科 野田研 M1

木村聡志 生命機能研究科 小倉研 B4